

くことが学びの動機付けになります。]

地域に踏み出して

「学校は、ボランティアセンターや商店会など、どんどん地域に踏み出してキーパーソン（中心となって連携を進めてくれる人）

高校生の体験活動を効果的に行うためには、地域のボランティアセンターと連携することも大切です。そこで、

「市民活動センターたちかわ」の早川郁子さんに、学校と地域の連携についてお話を伺いました。

市民活動センターたちかわでは、次年度からの奉仕体験活動に向けて、積極的に先生からの相談を受けるとともに、活動プログラムの例を紹介したり、市内の人材や制度を紹介したりすることを通して、学校とともに授業の企画を進めています。

活動プログラム例の紹介

「高齢者から歴史を学ぶ」（長期プログラム）の流れ

- ① 授業のオリエンテーション
- ② 高齢者への理解についてレクチャーと傾聴トレーニング
- ③ 地域の高齢者にヒアリング活動体験
- ④ 文章起こし・文集にまとめ、図書館に寄贈
- ⑤ お世話になった方に報告とお礼の会（学習したことを地域の人に一緒にお祝いしてもらう）

先生からの相談を受けることについて

「私たちとしては、学校に様々なサービスを提供するいい機会だと考えています。先生方との関係づくりも大切です。ですから、どんどん相談に来ていただき、社会資源を活用してほしいです。ただ、大人数でいきなり受け入れてくれと言われても難しいです。まず先生が生徒にどんな市民になってほしいか、何を得てほしいかを、活動の前後の学習も含め計画した後、まだゆとりのある大卒の段階で相談に来ていただくと対応しやすいです。人数や場

を探ることが重要です。地域は豊かな体験を提供してくれる場です。そこに高校生の発想力と行動力が加われば、より充実した体験ができます。

今後は青少年が興味をもつようなワークショップや講座を展開していくとともに、今あるものをさらに魅力的にし、子どもの可能性を広げるような活動を進めていきたいですね。」

所等まで決められてしまうと対応が難しくなります。そしてできるだけ身近で丁寧に取り組める活動を、カリキュラムから一緒に作り、地域で支援してくれる人も増やしていきたいです。」

地域とのつながりについて

「高校と地域のつながりを深めていくためには、外部資源をプログラムとして活用していくことが大切です。地域の中にも、いろいろなヒントがありますし、人を育てるのが上手な人もいます。地域との連携を深めることで、安定した支援体制が地域にできることが期待されます。

わたしたちは様々な団体とつながりがあります。御相談いただければ、どんどん紹介していきたいと考えています。新しい要望でも構いません。私たちも新しい人材や団体を開拓し新たなパイプを作っていくことで、多様な価値観の他人とでも共に社会を作り続けられる市民像を、高校生と探求したいのです。ぜひ一緒に取り組んでいきましょう。」



【お問い合わせ先】
市民活動センターたちかわ

〒190-0013 立川市富士見町2-36-47
(社会福祉法人 立川市社会福祉協議会内)
電話：042-529-8323 / 529-8300
FAX：042-529-8714
URL：http://www.whi.m-net.ne.jp/aiaics/

様々な分野で活躍されているコーディネーター及び団体の御紹介

分野 障がい者福祉

社会福祉法人 荒川区社会福祉協議会

管理課・事業係長 鈴木訪子さん コーディネーター 浅野芳明さん

荒川区社会福祉協議会では区内の学校・各団体と連携して様々な取組を計画・実施しています。

福祉体験活動を行う上で

「車椅子体験や視覚障がい体験では、必ず当事者の方に参加していただきます。体験さえすればいいのではなく、当事者とかわり、話をする中で触れ合い距離を縮めていくことが大切です。また、障がいのある方は大変だ、という考えがゴールになってはいけません。体験を通して一人一人がみんな違うことを学んでほしいのです。

活動を通して最も大事なことは、この活動を通して、今身近にいる人に関心を持ち、相手の立場に立つことです。周りの人への思いやりの気持ちをもつことが福祉教育の原点です。障がいのある方のかかわりは、それを気付ききっかけです。身近な友達を大切にしてほしいです。」

学校との連携について

「事前に先生や当事者の方と話し合うことが大切です。先生がもっている情報を共有し、前もって当事者の方に理解してもらうことで、当事者の方も話す内容を実態に合わせることができ、子どもの集中度が変わってきます。

また、中学生くらいになると、内面では多くを感じていても表面に出てこないことがあります。その際、やりっぱなしではなく、必ず振り返り何を感じたのかを聞いてほしいです。また、体験活動の際に、小グループに一人ずつ障がいをもつ方が入ったときには、中学生もよく発言しました。授業の進め方を工夫することも大切だと感じました。」

主な活動例及び今後の活動予定

- ✓障がいをもつ方による学校への出前授業。(中学生と協働して、障がいをもつ方が前向きに生きていく様子を紹介したビデオを作成)
- ✓サマーボランティアスクールの実施。大人から子どもまで多数が参加。区教育委員会が研修の一環として位置付け、教員も多数参加。
- ✓都立工業高校では、延長コードを作って地域の高齢者や障がい者団体を中心に寄付をする活動を計画中。
- ✓1月下旬に荒川区・北区・台東区・文京区のボランティアセンターが連携して、都立高校の先生に向け情報交換会を実施予定。各学校の奉仕科カリキュラムについて情報交換、地域の高校生を受け入れる施設の紹介を予定。

荒川区社会福祉協議会

〒116-0003 荒川区南千住1-13-20
電話：03-3802-3338 FAX：03-3802-3831
メール：arakawa-shakyo@nifty.com
URL：http://homepage2.nifty.com/arakawa-shakyo/